



絵画コンクール

猫になって描いてみよう

～わがはいはネコである～

小学生低学年(1・2・3年生)の部

最優秀賞	64
優秀賞	65
朝日新聞社賞	66
紀伊國屋書店賞	67
新潮社賞	68
早稲田大学賞	69
佳作	70

小学生高学年(4・5・6年生)の部

最優秀賞	76
優秀賞	77
朝日新聞社賞	78
紀伊國屋書店賞	79
新潮社賞	80
早稲田大学賞	81
佳作	82



最優秀賞



タイトル

夏休のねこ

世田谷区立鳥山小学校 2年 林 光太郎

説明

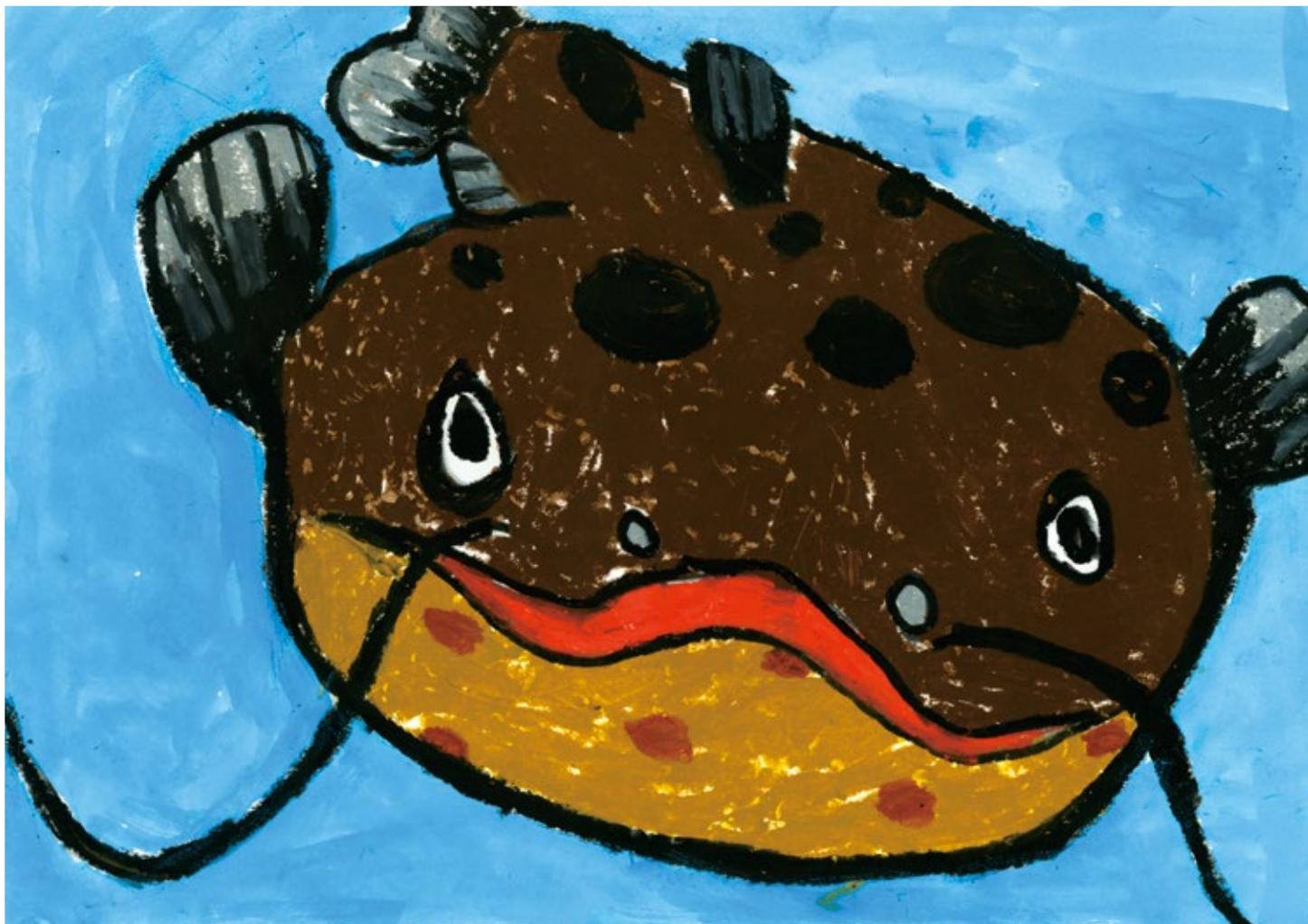
いろいろな国にいったむし目がねでいろんないきものを見たからからだじゅうがきれいになりました。

審査講評

大胆な色使いでインパクトがある。紙全体を上手く利用している。



優秀賞



タイトル

なまずくんもりっぱなひげだね

さいたま市立文蔵小学校 1年 加登 壮一郎

説明

なまずくんのひげをみていたら、なまずくんもぼくのひげをみにきたよ。

審査講評

お互いのひげを見合っているという設定がおもしろく、可愛い。



タイトル

新宿区のきれいな夜けい

新宿区立西戸山小学校 3年 甲斐 結月

説明

わたしのすんでいる新宿区の夜けいがすきなのでねこになって夜けいのふうけいを見ているねこをかきました。

審査講評

新宿らしく風景を描いていて良い。



タイトル

ねこにのっとられた家族

新宿区立津久戸小学校 3年 弓削 康晴

説明

ねこにぼくたち家族がのっとられて、ねこが好きなものを食べぼくたちはねこのごはんを食べさせられる。

審査講評

宮澤賢治の世界を描いているようだ。食欲旺盛な猫は怖いくらいだ。

新潮社賞



タイトル

わたしのいもうとを見ているねこ

新宿区立落合第一小学校 2年 久保 神楽

説明

わたしは、いもうとが小さいとおもってたけどねこから見たら大きいと思った。

審査講評

「小さい」妹が巨大に見えてしまう「猫の目線」がよく描かれている。



早稲田大学賞



タイトル

うれしいごはんの時間

玉名市立玉名町小学校 1年 藤田 夕華子

説明

飼い猫のニコがお皿にえさが入る音を聞いて、ゆっくりいつもの場所に歩いていくところです。

審査講評

飼い猫が夕食にありつこうと、ゆっくり歩いていく後ろ姿が実にうまく描けています。少し歪んだ空間の描写からは、感情を作中に投影して表現する、絵画・映像・文学・建築などの芸術に見られる「表現主義」が想起されてきました。小学校1年生とは思えない、素晴らしい表現力です。

佳作

タイトル

お魚いるかな

新宿区立津久戸小学校 3年 古村 大齊



[説明]

猫たちが魚がいるかなと思ってバケツをバシャバシャやっているのを自分が見ている。



[説明]

ねこがねてる。

新宿区立東戸山小学校 1年 藍 亮太郎

佳作



新宿区立東戸山小学校 1年 大地 武虎

【説明】

やみにすいこまれてるねこ。



タイトル

あーはやくたべたいな

新宿区立四谷小学校 2年 金子 千夏

【説明】

わたしは、たべるのが大きいので、ねこになってもしょくじのことが気になると思ってごはんをもらっているところをかきました。メニューはふだんからわたしも食べている、ねこがすきそうな小魚にしました。

佳作

タイトル

ゆっぴとねい

新宿区立落合第四小学校 1年 寺岡 利乃亜



〔説明〕

もしわたしがねこだったら、おおきなうみにしずむおおきなゆうひをみたいです。

タイトル

白くねい

新宿区立西戸山小学校 3年 ジョエル チヨンバン



〔説明〕

アイパッドで見てかわいかったから。



タイトル
「にじにぱおで」

新宿区立西戸山小学校 3年 堀野 隼一郎



【説明】
飼い主さんに呼ばれて、
喜んで走って行く様子を
イメージして描きました。

タイトル
「はっ。みつかった...。」

文京区立明化小学校 3年 作美 慧悟



【説明】
茶々(ちゃちゃ)が眠っているところをこっそりエサをとろうとしたらばれた(見つかった。)

佳作

タイトル

ぼくのおにわ

松山市立東雲小学校 1年 堀越 結稀



〔説明〕

げんかんでまどから、そとをみているかいねこ「ユバ」になってかいてみました。

タイトル

こたつの中のねこ

安芸太田町立上殿小学校 2年 木下 芽衣

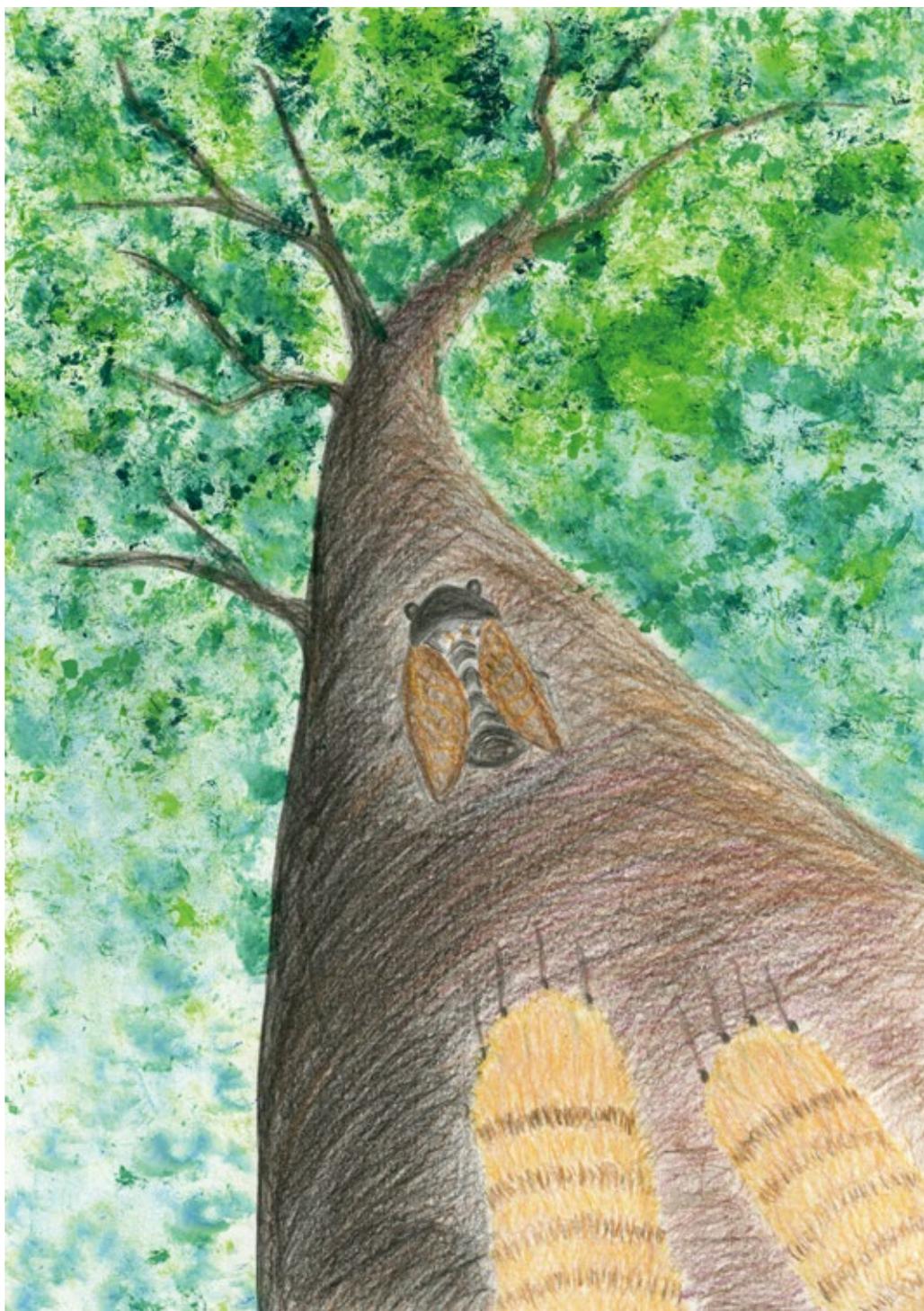


〔説明〕

ライトのまわりのきいろをぬるのがたいへんだったけどがんばってぬりました。



最優秀賞



タイトル

セミくん、一緒に遊ぼうよ!

さいたま市立文蔵小学校 5年 加登 可奈子

説明

気持ち良さそうに鳴くセミを発見。遊びたくて手を伸ばしたところを描きました。

審査講評

猫の体重がのって、爪が滑った痕まで描かれている伸びやかな作品。

優秀賞



タイトル

ぼくが見えてる？

宇都宮市立中央小学校 5年 安留 悠

説明

人間はスマートフォンばかり見ている、周りを見てない。もちろんぼく(猫)にも気付いていない。

審査講評

スマホを見ている人々を見つめる猫の表情が良く、細かい部分までよく描けている。

朝日新聞社賞



タイトル

人間ってなんだろう。

ジャカルタインターナショナルスクール 4年 相原 亜海

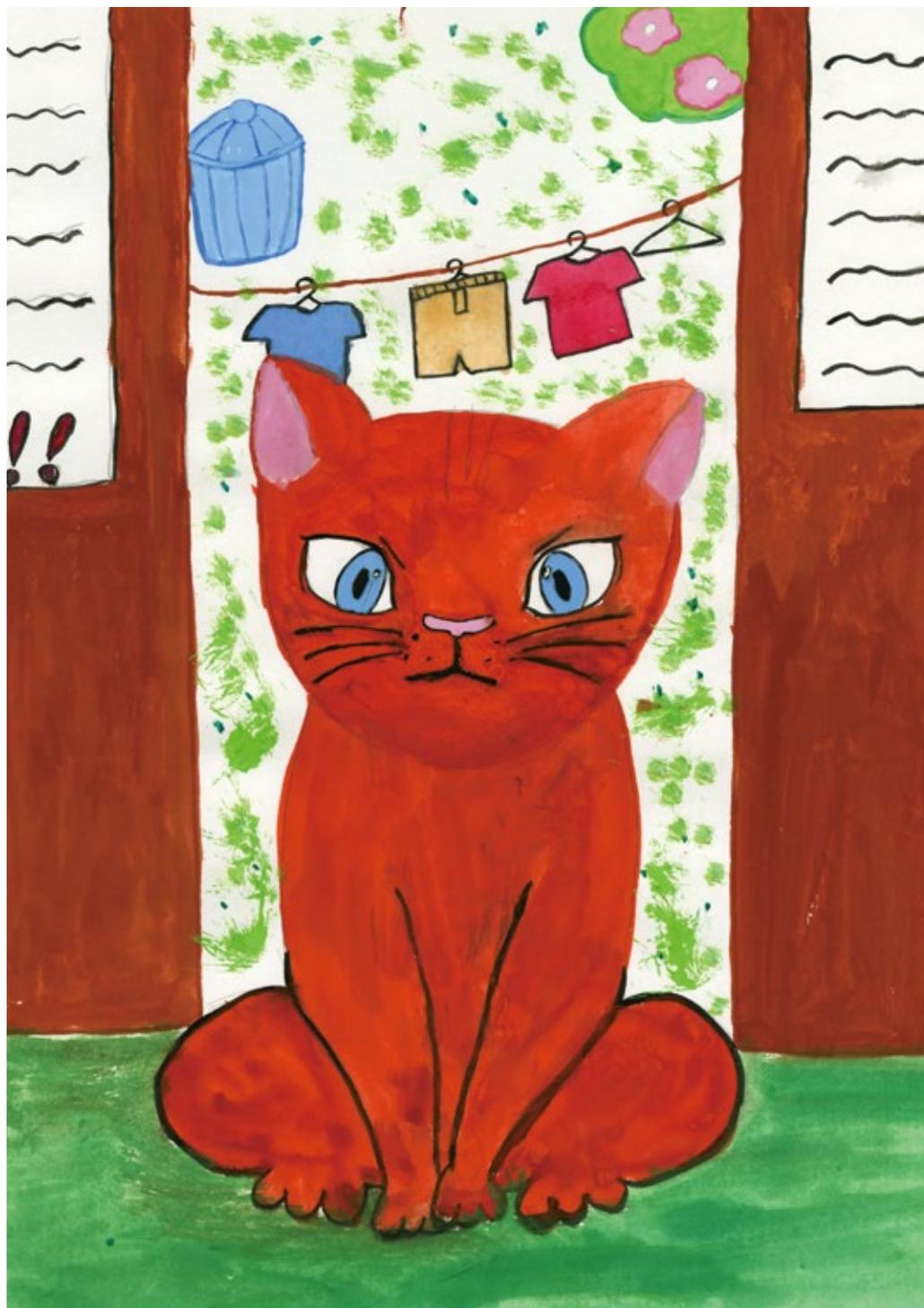
説明

わたしとは全くちがう人間っていう生き物がいる。2本の足で歩いている。わたしみたいににぼしを食べない。ふしぎな生き物だ。

審査講評

独特な視点で、輪郭が描かれていないのにインパクトがあり、絵が強い。

紀伊國屋書店賞



タイトル

なわばりあらそい!

新宿区立西新宿小学校 6年 筧 伽那

説明

自分のなわばりをとられないように他のねこをにらんでいる。

審査講評

なかなかこの色使いはできない。猫の目力も印象的。

新潮社賞



タイトル

ネズミの逆襲

新宿区立落合第三小学校 5年 後藤 恭佑

説明

ネズミは、じみだから、めだたせたいと思いました。ネズミが成長する薬をのんで、つよくなってネコに、しかえしをする。

審査講評

ネコに逆襲するネズミ、という着想がユニーク。表現も大胆で力強い。



タイトル

つかまえてやる

新宿区立西新宿小学校 5年 福田 梨夏

説明

すずしい木かげで昼寝をしていた猫が、ふと目を覚ますと、そこにきれいなちょうが飛んでいた。「つかまえてやる！」猫は飛びかかる。

審査講評

昼寝をしていた猫が覚醒し、美しい蝶をとらえようとする様子が色彩豊かに描かれていて巧みです。残念ながら蝶には届きませんが、描かれた猫の手からは、明るく伸びやかな印象が伝わってきます。物語性と配色のバランスの良さに加えて、受賞者の世界の捉え方にも魅力を感じました。

佳作

タイトル

「これなあに?」

新宿区立早稲田小学校 6年 中川 月香



〔説明〕

猫が植えてあるトマトに対して「これはいったい何なんだ?」と疑問に思っている風景を描きました。

タイトル

猫の目線で見る世界

新宿区立早稲田小学校 6年 菅原 淳



〔説明〕

猫が排水口の上ののって、下を見つめている様子をえがきました。金色や銀色の絵の具で点をかいたり、草を何色も色をかさねてかいたところを工夫しました。

佳作



【説明】

小さいころママと猫をみるときちょっとこわい、ちょっとかわいいと思いながら「おいでおいで」とっていました。猫からみたらどうだったかなと思ってかきました。

タイトル

おいで、おいで

新宿区立余丁町小学校 5年 阿部 雄大



【説明】

食いしんぼうのねこが魚に囲まれている夢を見て、うれしそうな顔でねているところ。

タイトル

昼ね

新宿区立四谷小学校 4年 松岡 陽茉莉



タイトル

花よりだんご、まねきねこより魚！

新宿区立落合第四小学校 4年 大石 くるみ



〔説明〕

まねきねこコンテストのかん板が魚でつられている所や、魚の1年分の水そうの中の魚をいっぱい書いた所を工夫しました。

タイトル

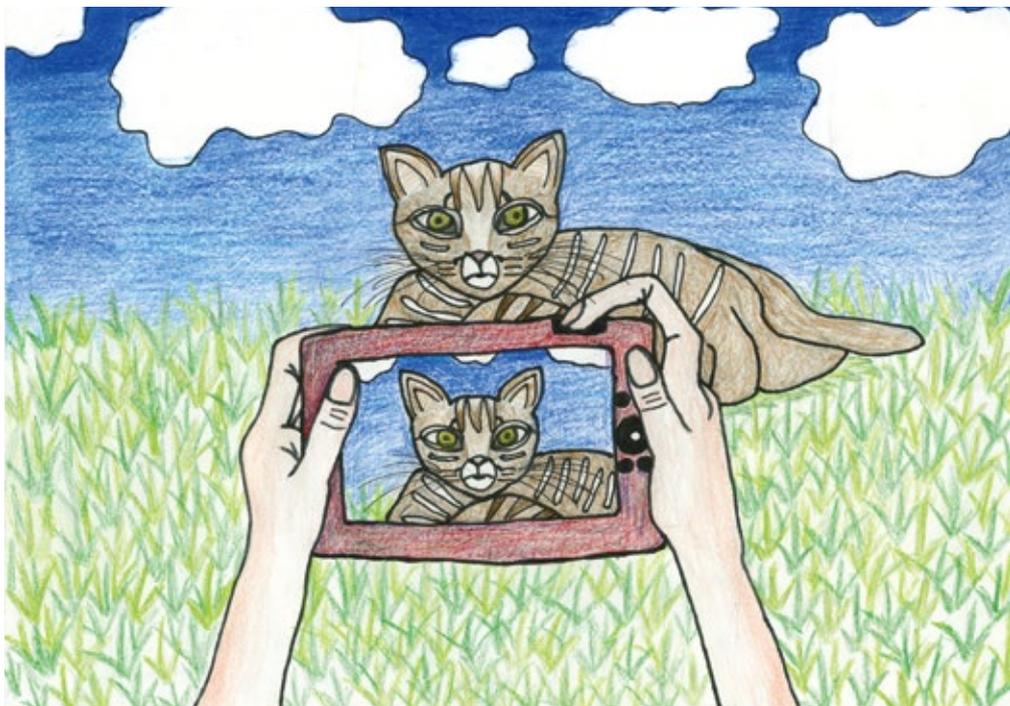
真夜中の静かなネコの散歩

新宿区立淀橋第四小学校 5年 木村 理乃



〔説明〕

静かなネコの散歩を見てください。



[説明]

公園のしばふに、おとなしくすわっているねこがいたので、デジタルカメラを向けると、じーとこっちを見つめているねこの気持ちになってかいてみました。

タイトル

ぼくをじーと見つめるの？

新宿区立西新宿小学校 4年 岡坂 蒔



[説明]

様々な国の猫が集まって仲良く話合う様子。

タイトル

猫だつて仲よく

新宿区立西新宿小学校 5年 羽田 朋未

佳作

タイトル

ネコの集会

新宿区立西新宿小学校 6年 御所野 華恋



〔説明〕

夜、空地でひっそりと集まっている。

タイトル

「RiOから東京へ」

新宿区立西戸山小学校 6年 進藤 高生



〔説明〕

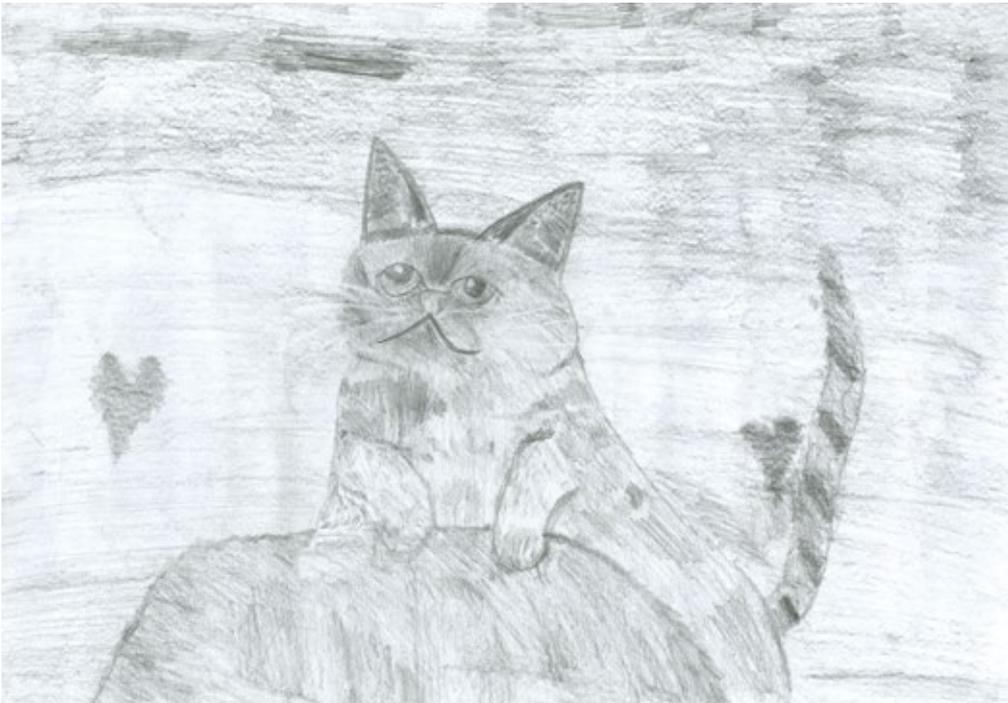
窓あかりがいつもより多かった東京の夜。日本選手の活躍に、毎晩、猫も感動している様子。4年後は、もっと楽しみ～！



タイトル

猫の集会

府中市立若松小学校 4年 西澤 浩平



タイトル

いとこのネコ

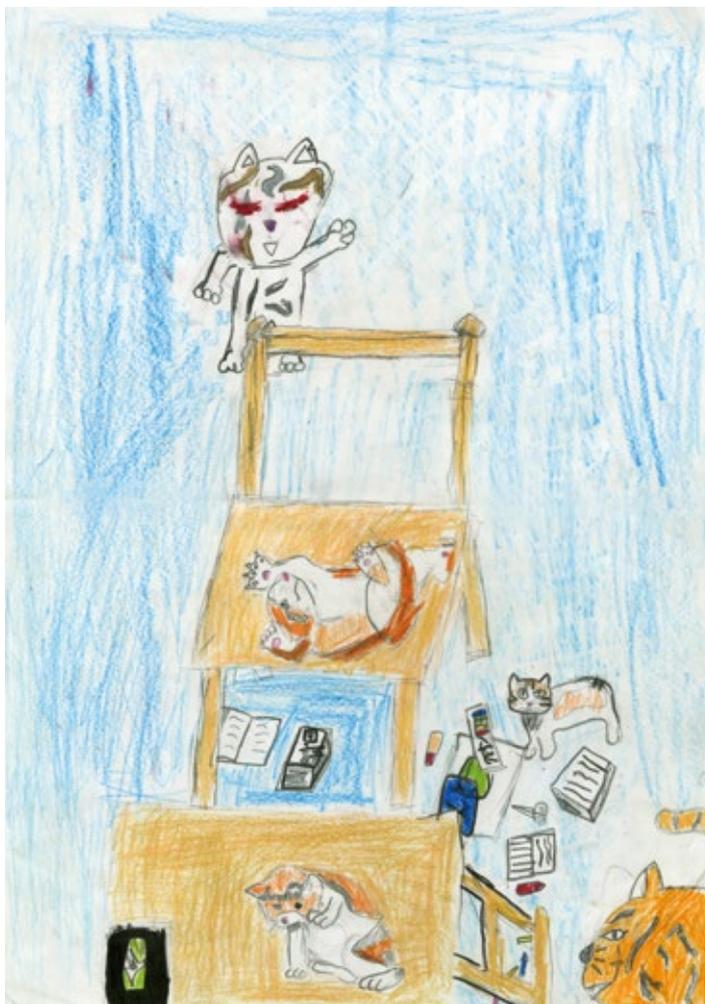
府中市立若松小学校 6年 甲斐 渚

佳作

タイトル

やっちまった猫

安芸太田町立戸河内小学校 4年 栗栖 琉生



〔説明〕

子どものねこがつくえの中をさぐっておどうぐばこをおとした。



タイトル

ぼくの散歩道

阿蘇市立波野小学校 5年 高橋 温夢

〔説明〕

ぼくのねこが、散歩している道。いっしょに歩いたら不思議な感じがしました。